

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護援助方法論Ⅱ	NSP12_001	必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 文子	418	fumiko.sakamoto	月～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	本科目では、環境調整技術、食事援助技術、排泄援助技術、活動・休息援助技術に焦点を当てて、看護実践に必要な基本的知識と科学的根拠に基づき、対象者のニーズに基づいた援助を行うための知識・技術・態度を学修する。看護技術は人を対象とするものであり、学生が自己の健康や日常生活における体験も活かし、対象の生活機能のアセスメントによりニーズを把握し、科学的根拠に基づいた看護技術を実施する。さらに看護実施による対象への影響を文献的・体験的に理解しながら、患者にとって安全・安楽で正確・確実な技術を修得することを目指す。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業 (自主学習) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	1.生活援助技術は、人間の日常生活行動がどのような心身の機能を使っているかを理解した上での学習となる。各単元に必要な人体構造機能学、生化学、人間関係論等の復習を行い授業に臨んでほしい。 2.不明点や疑問点はそのまませず、授業内の意思表示や教員への質問等を行うことで解決するよう主体的に取り組んでほしい。また自己練習により技術の修得に取り組むことを望みます。				
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②/有田清子ほか/医学書院/2021 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③/有田清子ほか/医学書院/2021 [2冊指定]				
参考書	・新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第6版/深井喜代子ほか/メジカルフレンド社/2021 ・看護技術が見えるvol.①基礎看護技術/編:医療情報研究所/メディックメディア/2018				
外部教材	動画教材など、授業時に提示する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護技術実施における倫理的判断と対象者の権利擁護の大切さを説明できる。	NS(1)(3)			
②	日常生活援助技術の根拠と方法について説明できる。	NS(1)(3)			
③	日常生活援助において、根拠を基にした基本技術を実践できる。	NS(1)(3)			
④	実施した看護技術について患者役学生の反応から振り返り記述できる。	NS(1)(3)			
⑤	援助技術に習熟するよう取り組み姿勢を示すことができる。	NS(1)～(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術 ・環境とは、人間にとっての環境の意味	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
2	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術 (臥床患者のシーツ交換、体位、体位変換、ボディメカニクス)	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
3 4	環境調整を助けるために必要なエビデンスと技術 (演習:体位、体位変換、ボディメカニクス 臥床患者のシーツ交換)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
5 6	移動を助けるために必要なエビデンスと技術 (演習:移動・移送、車椅子・ストレッチャー)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
7 8	飲食を助けるために必要なエビデンスと技術 排泄を助けるために必要なエビデンスと技術	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
9 10	適切な飲食を助けるために必要なエビデンスと技術 (演習:飲食の援助)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
11 12	排泄を助けるために必要なエビデンスと技術 ・排泄のアセスメント・自然な排便を促すためのケア、 排泄の介助 (A, B 2グループに分かれて実施)	講義・演習	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	2	
13 14	事例を用いた援助技術の実施・グループ発表 *各グループで事例に対する援助を実演する。	演習	事前課題: この授業までに各自オープンベッドの作成技術の確認を得ておくこと。 事後課題に取り組む。	1	
15	睡眠と休息を整えるために必要なエビデンスと技術 ・睡眠の種類 ・サーカディアンリズム ・睡眠障害のアセスメントと援助	講義	事前課題を実施しておく。 事後課題に取り組む。	1	
試	筆記試験、技術試験				

【専門科目領域/専門科目群/看護の基本】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		50	30	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	50	10	0	0	20	80
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	・授業中に講義した内容の理解度および知識の定着について、学期末に定期試験を実施して評価する。				試験終了後に、試験の解説を行い、学生の質問に答える。
	②	✓	・形式は、記述式、選択式の混合である。				
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
レポート	①	✓	単元ごとに学習課題を提示する。課題レポートの提出状況と内容により評価する。				演習時にレポートを活用できるようにする。 演習後にレポートを提出し、コメントを記入する。
	②	✓					
	③	✓	演習終了時には、演習の課題を提示する。				
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①		事例を用いた援助技術の実施・グループ発表における成果を評価する。				授業時間内で評価をコメントする。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	演習時の身だしなみ、取り組み姿勢、授業の遅刻、授業態度を評価する。				授業時に評価をコメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	窪川理英、小石川好美、その他						
教員の実務経験	科目責任者は、看護師として15年の臨床経験、看護教員として20年以上の経験を有する。						
実践的授業の内容	すべての看護技術は目的と根拠、患者への影響を踏まえて行うこと、そのための知識と技術の習得状況を確認しながら授業を進める。演習では患者役看護師役として実施後の振り返りを丁寧に行い、技術の習熟に活かすことを大事にする。						
そ の 他	今後の状況など社会情勢によって、シラバスの変更を行う可能性がある。						